

令和7年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立和霊小学校

1 自己評価書

教育目標	豊かな人間性を培い、たくましく生き抜く和霊の子の育成				
基本方針	和霊教育の歴史と伝統を受け継ぎ、地域に開かれた特色ある教育を推進し、社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、心身ともに健やかで、主体性と実践力と郷土愛を身に付けた児童の育成に努める。				
本年度 重点目標	1 確かな学力を育てる教育の推進 2 豊かな心、すこやかな体を育てる教育の推進 3 生徒指導の充実 4 特別支援教育の充実 5 健康・安全教育の推進 6 教職員の資質・能力の向上と業務改善の推進による学校組織の活性化				
評価 項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確 か な 学 力 の 定 着 と 向 上	① 全国学力・学習状況調査 及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施		後期 のみ
		主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C B A	B
	② 授業改善	ねらいを明確にした分かる授業を行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	C B	C
		一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C A	B
		家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C B B	B
	④ 読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行なった。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C B	C
		ふるさと学習及びESDの推進	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C B C	C
	(成果○と課題●) ○ めあてを提示して学習の流れを伝え、見通しを持って学習に取り組められるようにした。また個に応じたねらいを設定しスマーブルステップで継続的な指導ができた。 ● 対話の方法やタイミング、授業と連動させた家庭学習に課題が残る。				
	(改善策等☆) ☆ 授業では、めあて→まとめ→振り返りの流れを定着させ、家庭学習と結び付けるなど、授業と連動した家庭学習に取り組むことで、児童の自主性を育てたり、学習内容の理解を深めさせたりする。 ☆ どの教科でも対話力や表現力の向上を意識した話し合い活動を取り入れ、話し合うことに慣れさせる。また、児童の学習の足跡をタブレットに残し、家庭学習につなげたり保護者へ発信したりする。 ☆ 読書意欲を高めるために、新しい本の購入や紹介、ファミリー読書など、様々な取組を行っていく。				
評価 項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生 徒 指 導 の 充 実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C A B	B
		児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C A A	B
		不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C A A	B
	③ 関係機関との連携	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C A A	B
		スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C B B	B
		自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的に行なった(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	C B	C
	④ 自己肯定感 等	自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	C B	

(成果○と課題●)

- 日々、小さな達成感を積み重ねることが、自己肯定感につながっている。
- 不登校児童への対応については、保護者と連絡を取りながら進めたが、改善につながらない。

(改善策等☆)

- ☆ 不登校児童については、関係機関や他の教員と連携したり、ケース会議を行ったりするなど、組織で対応する。
- ☆ よい行いは褒め、よくない行いはいけない理由を簡潔に伝えるなど、心に響く指導を継続し、規範意識を高めていく。

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退勤調査」の分析と活用	C C	C
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	C	C
	③		休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	C	C
(成果○と課題●)		教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。				

(成果○と課題●)

- 仕事の優先順位を明確にして、一つ一つの業務の重要性を考えることで、効率的に業務を進めることができた。
- 一生懸命働いても時間外勤務が減らない。また校務分掌や学年によって勤務時間外の仕事に大きな差を感じる。
- 80時間を超えないのが一番だが、それ以下の超過時間でも負担感が大きいか心配している。しんどい時はしんどいといつても言える職場が一番だと思っている。

(改善策等☆)

- ☆ スクールサポートスタッフを効果的に活用したり、取捨選択をしたりして優先度の高い業務から取り掛かるようにする。
- ☆ 業務時間確保のために校時の組み方を工夫したり、校務分掌の割り振りを考えたりし、一部の人に負担が偏らないようにする。
- ☆ 一人だけに仕事が集中していないか周りをよく見て、みんなで声を掛け合えるような職場づくりに努める。

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	C	C
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	C B B	
	②		家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	C B A	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談できやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	B B B	B

(成果○と課題●)

- 2学期以降も電話や来校者の対応について、相手の身になり、気持ちの良い対応を心掛けたい。
- 通信やホームページの更新等、計画的に行なうことができなかつた。
- 学校運営協議会や地域学校協働活動の情報提供が十分にできていない。

(改善策等☆)

- ☆ 週に一回程度、通信を発行したりホームページを更新したりする等、計画を立てて行う。
- ☆ マチコミ配信について、緊急時以外にも日々の教育活動において活用できるようにしていく。
- ☆ 2学期の学校運営協議会では、全教職員で熟議を行うなど、地域の力を学校運営に生かしていく。

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

